社 説

Climate of compromise

コペンハーゲン会議に向けて

Nature Vol 461(1027-1028)/22 October 2009

いよいよ 12 月 7 日から国連気候変動枠組条約締結国会議がコペンハーゲンで開催される。強力な施策が合意される可能性は低いが、希望は感じられる。

気候変動枠組条約に関するコペンハーゲン会議(サミット)が直前に迫った。強力な協定がまとまる可能性は薄れ、世界中に悲観論が蔓延している。しかし、数年前の状況を思えば、コペンハーゲン会議は既に部分的な成功をおさめたと見ることもできる。

この短い期間に、多くの国々が、自国の温室効果ガス排出量を大幅に削減すると約束した。その削減幅は、1997 年の京都議定書をはじめ、これまでのいかなる取り決めより大きな数字だ。例えばノルウェーはこの 10 月に、2020 年までに自国の温室効果ガス排出量を 1990 年の水準から 40% 削減すると約束した。インドネシアは同じ年までに、これまでどおりのペースで温室効果ガスの排出量が増加していった場合の予想排出量から 26%削減すると約束した。EU は、1990 年の水準からの 20% 削減を約束し、ほかの国々が同程度の削減義務を負うなら、削減幅を 30% に増やしてもよいとした。米国議会も、ここにきて初めて排出量削減を義務化する法律を制定する方向に動きだした。

これらの言葉は約束であって実績ではない。しかし、多くの国々が独自に削減目標を設定しはじめたことは、国際的な協定を成立させる基盤となる。京都議定書に署名した 12 年前にはなかった真剣さで、温暖化対策に取り組んでいるようにみえるのだ。これこそが本当の前進だ。条約の締結というプレッシャーなくして起こりえない変化だった。

しかし、各国の約束は、地球温暖化の危険を回避するのに必要な水準には達していない。長期的には、もっと大幅に削減していく必要があり、削減の開始を延期すればするほど、終盤のノルマは厳しくなる。

Nature は 2009 年 10 月 22 日号の一連の記事で、コペンハーゲン会議での重要な要素について、一部検証を試みた。例えば発展途上国は、気候変動によって深刻な被害を受けるだけでなく、今後は温室効果ガス排出量の主要な増加要因になっていく。また、最も裕福な国々と、飲み水や電気を国民に供給するのが主要課題になっている国々との間には、なお大きな溝がある。

交渉の行き詰まりは、双方の譲歩によってのみ打開できる。先進国、特に米国は、今後 10 年間はもちろん、長期的にも、温室効果ガス排出量を大幅に減らすことに同意しなければならない。一方、発展途上国も、温室効果ガス排出を抑制する約束をしなければならない。中国は今や最大の二酸化炭素排出国となった。ゆえに、中国がなんらかの方策をとらないかぎり、地球温暖化を抑制できる見込みはない。

発展途上国が低炭素経済を実現させるには、金銭的・技術的支援が必要だ。裕福な国々はこれまで、この点についてほとんど何もしてこなかった。世界的な景気後退が回復したら、裕福な国々は、炭素排出量取引や新しい技術協力を通して、途上国を支援する仕組みを考案しなければならない。

もう 1 つの資金問題は、温暖化適応策の支援に関するものだ。いくつかの予想によると、発展途上国が地球温暖化に適応するための対策には、毎年 1000 億米ドルの支援が必要である。しかし、最も貧しい国々の温暖化適応策を支援するために設立された国際基金の拠出額は、この見積もりより数桁少なく、使える資金でさえ、必要とする国々にスムーズに届けられていない。資金配分の過程を合理化し、また、資金が効果的に使われる仕組みを整備しなければならない。

悲観的な人々は、こうした重大問題が未解決である以上、コペンハーゲン会議が成功するはずがないと考えている。しかし、各国首脳がこの問題を優先課題ととらえ、その緊急性を認識するなら、意味ある協定を結ぶための時間は残されているはずだ。英国のゴードン・ブラウン首相などは、強力な施策が合意されるよう、コペンハーゲン会議に自ら出席する意欲を表明し、ほかの国々の首脳も前面に出てきてほしいとよびかけた。コペンハーゲン会議の重みが増せば、実質的な合意に達する可能性も高まるからである。

とはいえ、重大問題の多くを年内に解決するのはほとんど不可能であろう。国家間の交渉は科学研究と似たところがある。いずれも反復的な過程であり、1 つの段階の成果が、その先の道を決めていく。成功までには時間と忍耐が必要で、とんとん拍子に進むことはめったにない。コペンハーゲン会議の前も後も、各国は地道な努力を積み重ねていくしかない。 (三枝小夜子 訳) ■

© 2009 NPG Nature Asia-Pacific. All rights reserved